

平成22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

記載内容の説明について

- ◎ この資料は、法人から提出された「公立大学法人宮城大学業務実績報告書(平成22年度)」について、評価委員会の評価に資するよう、事務局で整理したものです。
- ◎ 「公立大学法人宮城大学業務実績報告書(平成22年度)」の「平成22年度計画」の欄で、一連番号ごとに自己評価されているものを「中期目標」の単位で整理しております。

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置	0	10	172	21	203	95.1%	10.3%			
1 教育に関する目標を達成するための措置										
(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置										
1 イ 学士課程	0	0	11	0	11	100.0%	0.0%	A		【委員意見】 ・(例)No.xxxについて、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。
(イ) 共通教育 No.1~2			2		2					
(ロ) 専門教育										
〔看護学部〕 No.3~7			3		3					
〔事業構想学部〕 No.8~9			2		2					
〔食産業学部〕 No.10~13			4		4					
2 ロ 大学院課程	0	0	10	4	14	100.0%	28.6%	A *		【委員意見】
〔看護学研究科〕 No.14~15			3	2	5					
〔事業構想学研究科〕 No.16~18			4	1	5					
〔食産業学研究科〕 No.19~21			3	1	4					

○法人の自己評価に対して意見をいただくとともに、「仮評価の妥当性」、「S」又は「D」の評定について意見をいただきます。

この資料における
通し番号
〔この単位で項目別評価
をお願いします。〕

「資料4 業務実績報告書」の中期目標の項目ごとに整理し直しました。
〔資料4の細目の一連番号を
No.1~363で右に記載〕

○法人の自己評価を集計しました。

評定	法人の自己評価(4段階評定)
IV	年度計画を大幅に上回って実施している (特筆すべき優れた実績・成果がある)
III	年度計画を予定どおり実施している (達成度がおおむね90%以上)
II	年度計画を十分に実施していない (達成度がおおむね60%以上90%未満)
I	年度計画をほとんど実施していない (達成度がおおむね60%未満)

○記載されている数値は、「資料4」の「22年度計画」欄の一連番号ごとに法人が自己評価した評定の集計値

○「資料3 評価の実施要領」第4の2「項目別評価」の「評定基準」の「判断の目安」に基づいて機械的に「A~C」と仮評価しています。
○「*」は、法人の自己評価に「IV」又は「I」が含まれていることから「S」又は「D」を判断いただきたい項目です。

評定	評価委員会の項目別評価(5段階評定)評定の基準
S	特筆すべき進捗状況にある (委員会が特に認める場合)
A	年度計画を順調に実施している (自己評価の評定がすべて「IV」又は「III」)
B	年度計画をおおむね順調に実施している (自己評価の評定で「IV」又は「III」がおおむね90%以上)
C	年度計画の実施にやや遅れがある (自己評価の評定で「IV」又は「III」がおおむね90%未満)
D	年度計画の実施が遅れており、重大な改善事項がある (委員会が特に認める場合)

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0	2	212	14	228	99.1%	6.1%			

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

1	イ 学士課程	0	0	12	1	13	100.0%	7.7%	A *	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.2)学部学科により存在する学生の到達度の差はH23の課題。(No.5)専門基礎科目と専門教育の連動性はいかに実現されたか。打ち合わせだけでは説得力不足</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A No.9についてはIVの評価は妥当だが、これだけをもって全体をSと評価することはできないため。</p> <p>角山委員:S 事業構想学部はMBAを目指しているかと思うが、食産業と連携してスローフード(やや古いか)ビジネス等、国際的に通用するテーマにしたら。</p> <p>中嶋委員:A 3学部とも大震災後に最もふさわしい教育・研究体制をとれるようになっており、大いに期待できる。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。No.9の専任教員の採用は計画を上回るものであるが、これにより特筆すべき実施状況にある(S)とまでは言えない。</p> <p>藤崎委員:A</p>
	(イ) 共通教育 No.1~2			2		2				
	(ロ) 専門教育									
	〔看護学部〕 No.3~7			5		5				
	〔事業構想学部〕 No.8~9			1	1	2				
〔食産業学部〕 No.10~13			4		4					
2	ロ 大学院課程	0	1	7	0	8	87.5%	0.0%	C	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:C</p> <p>猪股委員:C 仮評価で妥当と思います。博士課程設置申請を取り下げたのは残念だが、去年が「S」だったことを考えると「C」で妥当と考えます。</p> <p>関根委員:C なし</p> <p>角山委員:C</p> <p>中嶋委員:C 「研究能力養成コース」よりも「高度専門職養成コース」に力点を置く体制にすべきものと思う。</p> <p>野崎委員:C</p> <p>橋本委員:C No.20の博士課程設置申請の取り下げがありCもやむを得ない。</p> <p>藤崎委員:C</p>
	〔看護学研究科〕 No.14~15			2		2				
	〔事業構想学研究科〕 No.16~18			3		3				
	〔食産業学研究科〕 No.19~21		1	2		3				

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 入学者受入方針・入学者選抜

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
3	(イ) 学士課程 No.22～30			8	1	9	100.0%	11.1%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.22)入学志願倍率の高さ、高校側への働きかけによく取り組んでおられることは評価に値する。また就職率の高さも全国レベルと比べて突出している。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:S Sが妥当。No.23およびNo.24をIVと評価すべきであるため。</p> <p>角山委員:A 留学生は秋入学を進めていますか。定員に対してもう少しの努力を。</p> <p>中嶋委員:A 学士課程入試は概ね順調だと思う。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。No.22の多数の説明会実施によりS評価とまでは言えない。</p> <p>藤崎委員:A</p>
	(ロ) 大学院課程 No.31～34			4		4	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 大学院課程には外国人の出願があってほしい。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
□ 教育課程											
5	(イ) 学士課程	0	0	28	1	29	100.0%	3.4%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.39)人文社会分野の履修状況や到達度の点検をしたところ、履修状況も到達度も良好であった、と記しているが、とくに到達度の評価は何を基準としていたのか。自然科学分野での到達度には学部、学科に差が見られたと記されているが、対応としてかかっている低学力層へのリメディアル教育は有効であったか？</p> <p>(No.51)ここでの記述だけからでは「融合講義」の内容が理解しにくい。</p> <p>(No.52)国際インターンシップについて具体的内容が知りたい。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います。(No.36)中国語で73名という大幅増とありますが、前年度比でいうと何割増ということでしょうか？</p> <p>関根委員:A Aが妥当。</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 共通教育の中国語、韓国語重視のためには、非常勤ではなく専任教員が必要。災害看護をはじめ、3学部とも専門教育を災害支援に向けて、カリキュラムの変更もあり得よう。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。中国語・韓国語の受講者増は計画を大幅に上回ったが特筆すべきSには当たらない。</p> <p>藤崎委員:A</p>
	a 共通教育 No.35～39			4	1	5					
	b 専門教育										
	〔看護学部〕 No.40～45			6		6					
	〔事業構想学部〕 No.46～50			5		5					
	〔食産業学部〕 No.51～54			4		4					
c 学習機会の拡大 No.55～57			3		3						
d 国家試験・資格 No.58～63			6		6						

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

	評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
6	(口) 大学院課程【21】 No.64～76			13		13	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 実務的な分野の専攻内容であるので大学院で何を学べるのか、その吟味が注目される場所であるが、短い記述からは読み込めないのが残念である。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います。</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 大学院に英語での授業も加えてほしい。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見	
ハ 教育方法												
7	(イ) 学士課程	0	0	28	1	29	100.0%	3.4%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.78)関係者の努力は多とするが、評価はⅢで妥当と判断する。</p> <p>(No.80)クラスサイズを縮小することは教員数の問題、教室の確保など、たいへんコストがかかる。50人クラスはまだ大きい今後の改善を望みたい。学年ごとの履修状況や単位取得状況で把握は可能か。(No.84-94)看護学部の記載は主に実習に係わることである。専門教育の科目教育については現状でよろしいか。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います。(No.78)研修期間が21日間と長くなったとありますが、通常の期間はどのくらいなのでしょう?</p> <p>関根委員:A Aが妥当。</p> <p>角山委員:A TOEICはもう少し頑張って欲しい。</p> <p>中嶋委員:A 共通教育の「英語教育」重視は必要だが、1年生のTOEIC達成目標のスコア「400~500点」は低すぎるので、徐々に上げてゆくべきだ。海外研修にはさらに力を入れてほしい。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。海外語学研修の充実は評価できるが特筆すべきSには当たらない。</p> <p>藤崎委員:A</p>	
	a 共通教育 No.77~83			6	1	7						
	b 専門教育											
	〔看護学部〕 No.84~94			11		11						
	〔事業構想学部〕 No.95~96			2		2						
	〔食産業学部〕 No.97~105			9		9						
8	(ロ) 大学院課程	0	0	14	0	14	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.108)個別指導と集団指導の組み合わせによる効果的な指導スケジュールはいずれの大学院にとっても課題になっているが、どこにポイントをおいて改善を図られたのか。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います。</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>	
	〔看護学研究科〕 No.106~108			3		3						
	〔事業構想学研究科(博士前期課程)〕 No.109~111			3		3						
	〔事業構想学研究科(博士後期課程)〕 No.112~115			4		4						
	〔食産業学研究科〕 No.116~119			4		4						
ニ 成績評価												
9	(イ) 学士課程 No.120~121			2		2	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.120)評価基準をどのように定めるのか、関連の記述がない。</p> <p>(No.121)中期計画に盛り込まれたのは、従来そのままでは望ましくないという判断があったのではないか、実態は何も変わっていないとみえるが。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>	

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
10	(ロ) 大学院課程 No.122~125			4		4	100.0%	0.0%	A		【委員意見】 荒井委員:A (No.122)2009年度の博士後期課程の成績評価で「不可」が14%に及んでいるのは如何なる理由か。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:C Cが妥当。No.122をⅡと評価すべきであるため。 角山委員:A 中嶋委員:A 特になし 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置											
11	イ 適正な教員配置 No.126~133			8		8	100.0%	0.0%	A		【委員意見】 荒井委員:A 妥当な取り組みがなされていると評価する。(No.132)共通教育運営委員会と共通教育センターとの役割、連携が仕組として取り組まれたのか、はっきりしない。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:C Cが妥当。No.127をⅡと評価すべきであるため。 角山委員:A 128で公募と(内部)昇任のルールは独立したものか。会津大の場合、原則は公募で、昇任の人も外部と競争してもらおう。 中嶋委員:A 教員採用の公募制は評価できる 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A
12	ロ 教育及び教員の質の向上	0	0	9	0	9	100.0%	0.0%	A		【委員意見】 荒井委員:A 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:A なし 角山委員:A 中嶋委員:A 特になし 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A
	(イ) 教員評価 No.134			1		1					
	(ロ) 授業評価 No.135~136			2		2					
	(ハ) 教員研修 No.137~142			6		6					
13	ハ 教育環境の整備 No.143~150			6	1	7	100.0%	14.3%	A	*	※ 評定不能のため 母数に含めず(No144) 【委員意見】 荒井委員:A (No.149)メディアの革新が著しいなか、もう一工夫あってもよいのではないか。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います データーベース利用を教員や院生のみならず、学生にまで範囲を広げ、指導を行ったのは素晴らしいと思う。 関根委員:A Aが妥当。 角山委員:S 仮評価はS。 中嶋委員:A 図書館の利便性向上に努めてほしい。 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。No.147は年度目標を上回っているがS評価とまでは言えない。 藤崎委員:A

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
14	イ 学習支援 No.151~163			13		13	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.151)基礎ゼミの評価はどのように行われているか?また欠席しがちな学生への対応の結果、彼らは出席するようになったのかどうか。(No.152)学生への対応が学部ごとに異なっている。休学、長期欠席の学生に対しては全学的なレベルで取り組みを考える必要があるのではないか。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
15	ロ 生活支援 No.164~169			6		6	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:B (No.169)複数の委員会の間でどのような連携が行われたか、不明である。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
16	ハ 就職支援 No.170~184		1	13	1	15	93.3%	6.7%	B	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:B (No.171)具体的な内容不明。(No.178)離職調査はどのような方法で?</p> <p>猪股委員:B 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A Aが妥当。No.179をIVと評価すべきであるため。</p> <p>角山委員:B 173同窓会との双方向はやるべき。更に会社も協力してもらおうと良い。</p> <p>中嶋委員:B インターンシップの充実、企業の説明会誘致が必要。</p> <p>野崎委員:B</p> <p>橋本委員:B No.173のIIは惜しいが、まずまず順調に年度計画を実施していると言える。No.172だけでSとは言えない。</p> <p>藤崎委員:B</p>
17	ニ 経済的支援 No.185					0	#DIV/0!	#####	-		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:-</p> <p>猪股委員:-</p> <p>関根委員:-</p> <p>角山委員:-</p> <p>中嶋委員:-</p> <p>野崎委員:-</p> <p>橋本委員:-</p> <p>藤崎委員:-</p>

※ 評定不能のため
母数に含めず(No.185)

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
18	ホ 社会人・留学生への支援 No.186~189			4		4	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員：A (No.186-187) 取組みの事実はわかるが、その利用状況の情報がない。夜間の授業受講者数、留学生の窓口相談者数などが示されていたほうが良い。</p> <p>猪股委員：A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員：A なし</p> <p>角山委員：A</p> <p>中嶋委員：A 特になし</p> <p>野崎委員：A</p> <p>橋本委員：A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員：A</p> <p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>荒井委員：大学の入り口は少子化の影響を受け、また出口では経済的な不況を受け、就職事情はどこの大学も苦勞している。そのなかで本学がH22年度に達成された実績はみごとである。</p> <p>食産業研究科博士課程の設置申請は苦勞されているようすが、専門職大学院の発足もあり、日本の大学院そのものが見直し時期に入っていることも考慮しなければならない。申請が通る前提にはわが国の大学院政策が整理されることが前提となるため、多少の時間をようするのではないか。</p> <p>猪股委員：特になし</p> <p>関根委員：-</p> <p>角山委員：-</p> <p>中嶋委員：入試改善は大きな進展と思う。「ベストティーチャー賞」の創設は画期的。</p> <p>野崎委員：-</p> <p>橋本委員：全体としては年度計画が順調に実施されている。食産業学研究科博士課程設置申請は準備万端のうえ再挑戦して欲しい。</p> <p>藤崎委員：-</p>

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

19	イ 研究の方向性 No.190~194			3	2	5	100.0%	40.0%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員：S 大学外との共同研究、奨学寄付金、受託研究などは年度計画の件数を上回っており、実績をあげた。教育と学術的研究との調整をどう図るかが課題となる。</p> <p>猪股委員：S 目標の2倍以上の実績は評価すべきだと思います。</p> <p>関根委員：S Sが妥当。IV評価がⅢ評価より多いため。</p> <p>角山委員：A 地域社会と世界レベルの共存が難しいが、イタリアと連携してスローフードをやるとかできないか。</p> <p>中嶋委員：A 特になし</p> <p>野崎委員：A</p> <p>橋本委員：A 年度計画を順調に実施している。数値目標を超えたためIV評価が2件あるが、特筆すべき事項とまでは言えない。</p> <p>藤崎委員：A</p>
----	---------------------	--	--	---	---	---	--------	-------	---	---	---

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
20	ロ 研究水準の向上 No.195~199			5		5	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 研究の質の向上に向けて体制が整備されてきている印象です。研究紀要のwebへのアップロードも考えてよいのではないのでしょうか。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A 論文レベルは世界標準で判断されておられるのでしょうか。</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
21	ハ 研究成果の地域社会への還元 No.200~205			2	4	6	100.0%	66.7%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:S 長期的にこのような実績を維持し、人材養成に対しても地域から高い評価が得られていることを望みたい。</p> <p>猪股委員:S 地域の自治体等から大学との連携に関し期待されているのがわかりました。大学の得意分野が地域社会で認知されている結果だと思います。</p> <p>関根委員:S Sが妥当。Ⅳ評価がⅢ評価より多いため。</p> <p>角山委員:S 仮評価はS。</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。地域との連携が進んでいる様子はよく分かるが特筆すべきとまでは言えない。</p> <p>藤崎委員:A</p>
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置											
22	イ 研究の実施体制 No.206~211			4	2	6	100.0%	33.3%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 21年度の科研費獲得額が少なかったと記憶しているので、本学の実力からすれば、妥当なレベルではないか。</p> <p>猪股委員:S 前年度比120~134%の実績は評価すべきと思います。</p> <p>関根委員:A Aが妥当。</p> <p>角山委員:S 206科研費予備審査は良い。教員全員が提出するというルールになっていないのか。仮評価はS。</p> <p>中嶋委員:A 科研費採択の増加が必要。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。厳しい状況のなか健闘しているのは分かるが特筆すべき(S)とまでは言えない。</p> <p>藤崎委員:A</p>

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
23	□ 研究費の配分 No.212~216			5		5	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.212)「外部資金獲得に向けた競争的資金配分システム」とは?</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A Aが妥当。</p> <p>角山委員:A ー</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
24	ハ 研究者の配置 No.217~218			2		2	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.217)人事委員会における外部専門委員の意見は「参考意見」にとどまるのか?</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A Aが妥当。</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
25	ニ 研究環境の整備	0	0	6	0	6	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:B 教員のFDは授業方法、学生対応に関心が集中しがちだが、効率的な運営などに関し、事務系職員との連携をいかに進めるかもFDの課題。500万円以上の研究設備・機器の更新については、事情はともあれ評価Ⅲには到達しないのではないかと。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:C Cが妥当。No.222をⅡと評価すべきと考えるため。</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
	(イ) 研究時間の確保 No.219~222			4		4					
	(ロ) 研究設備 No.223~224			2		2					
26	ホ 研究活動の評価 No.225			1		1	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.230)評価Ⅲにはいたらないのではないかと。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 教員評価の徹底が必要。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

27	評価項目	I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
	へ 知的財産の創出 No.226~230			5		5	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.229-230):残念ながら評価Aに達していないのではないかと。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:A なし 角山委員:A 中嶋委員:A 特になし 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A</p> <p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>荒井委員: 科研費ほか外部資金の獲得に熱心に取り組み、成果もあがっている。研究成果報告についてはH21年度がH20年度に比べて落ち込みがあったので、常態に復したと拝見した。学術研究での成果は順調に上がっているとみられるが、TLOとの連携、移転技術がないなどの自己評価は今後の課題であろう。 猪股委員: 特になし 関根委員: 内外ジャーナルへの掲載が増えた理由は何か。 角山委員: - 中嶋委員: 国際ジャーナル論文数の増加は大いに評価できる。但し、件数がまだ少ない。 野崎委員: - 橋本委員: 全体に年度計画が順調に実施されており、数値目標は十分達成されている。予算環境の厳しい中、今後も剰余金の有効な活用を図って欲しい。 藤崎委員: -</p>

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置		0	4	23	18	45	91.1%	40.0%			
1 地域貢献に関する目標を達成するための措置											
28	(1) 県民の高等教育機関としての役割 No.231~239			8	1	9	100.0%	11.1%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.232)計画の凌駕するほどの努力をされたことは評価するが、この項目内容は本学の場合、やや遅れ気味であったので評価Aが妥当。(No.234)推薦入学での地域枠のとり外しは当面、他大学との競争力を強化しなかなければならない本学の選択として評価する。ただし、人材の県内回収も課題になる。授業の夜間開講は学生のニーズと適合しているか、追跡調査が必要である。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A Aが妥当。</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A PR対象の県外高校19校はまだ極めて少ない。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
29	(2) 地域社会への貢献 No.240~245			3	3	6	100.0%	50.0%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A (No.240-242)評価が妥当ではないか。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:S Sが妥当。IVが(IV+III)の半数となっているため。</p> <p>角山委員:S 仮評価はS。</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。IV評価が半数あるのは素晴らしいが特筆すべき事項とまでは言えない。</p> <p>藤崎委員:A</p>
											※ 評定不能のため 母数に含めず(No.250)
30	(3) 産学官の連携 No.246~256			5	5	10	100.0%	50.0%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:S (No.251-254)の実績を評価する。(No.256)翌年度の受注報告を理事へ報告することが「調査研究報告システム」といえるかどうか。</p> <p>猪股委員:S 地域からの要請に積極的に貢献し、大学の重要なミッションを果たしていると思います</p> <p>関根委員:S Sが妥当。IVが(IV+III)の半数となっているため。</p> <p>角山委員:A 地元との連携良くやった。</p> <p>中嶋委員:A 特になし。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。IV評価が半数あるのは素晴らしいが特筆すべき事項とまでは言えない。</p> <p>藤崎委員:A</p>

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
31	(4) 大学間の連携 No.257～259			2	1	3	100.0%	33.3%	A	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A e-ラーニングへの取り組み、コンソーシアムへの出講は少ないファカルティのなかで努力が要ることであるが、多くの大学がこれらの取り組みを同様に進めている。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A Aが妥当。No.258をⅡと評価すべきである。</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
32	2 国際交流等に関する目標を達成するための措置	0	4	5	8	17	76.5%	47.1%	C	*	<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 留学生への取り組みは多数の大学が遅れており、そのなかで国際センターの利用者が4倍以上に増え、また多数のセミナー講習を実施しことを評価する。(No.262-263)の多少の落ち込みは年度の波によるものと推察する。</p> <p>大学間協定も交流のための有効な手段だが、まずは相手校との具体的な事業取り組みが必要ではないか。実績のない協定はその後の展開が難しいことが多い。</p> <p>猪股委員:C 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:C Cが妥当。</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:C カリフォルニア大学ではデービス校でもかなり敷居が高いので、TOEFLのスコアで580点ぐらいないと受け入れてくれないのが普通。</p> <p>野崎委員:C</p> <p>橋本委員:C Ⅱ～Ⅳまでのばらついた評価結果となったが、全体としてはⅣが半数近くあり、年度計画をまずまず順調に実施しているといえる。4件のⅡ評価があるためCもやむを得ない。</p> <p>藤崎委員:C</p>
	(1) 国際交流を推進するための体制整備 No.260～263		2		2	4					
	(2) 海外大学等との連携 No.264～268		2	2	1	5					
	(3) 留学・留学生支援 No.269～276			3	5	8					
<p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>荒井委員: 地域と大学、大学間、国際交流など、かなり多彩な内容が第2節にはふくまれており、総合的な評価は難しい。取り組みから間もないものもあり、現状の達成度は項目ごとにばらつく。評価は計画内容との対比で行うべきだが、宮城大学に匹敵するような公立大学との比較もあえて行うと、秀でたところもあるが、全体としてはA評価となる。</p> <p>猪股委員: 特になし</p> <p>関根委員: 県内志願者は増だが入学率低下の理由は何か。</p> <p>角山委員: -</p> <p>中嶋委員: 地域貢献と県内就職先の増大は大いに評価できる</p> <p>野崎委員: -</p> <p>橋本委員: 地域貢献等に関する計画達成は昨年に引き続き評価できる。全体にⅣ評価が多くSに近いとも思われるが判断の難しいところである。昨年の評価とのバランスを考えると上記のようにならざるを得ないのか。</p> <p>藤崎委員: -</p>											
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		0	4	33	0	37	89.2%	0.0%			

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置											
33	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築 No.277～286		1	9		10	90.0%	0.0%	B		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員: B (No.281) 理事会のリーダーシップが謳われるのは昨今の常だが、大学の底力は教員、事務職員の質、意欲の高さに依存する。そのことに十分に留意する体制になっているか、検討の必要がある。学長選考会議は引き続き、運営体制のモニターとして機能するべきではないか。</p> <p>猪股委員: B 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員: A Aが妥当。No.281をⅢと評価すべきゆえ。</p> <p>角山委員: B</p> <p>中嶋委員: B 教授会の回数減は重要。</p> <p>野崎委員: B</p> <p>橋本委員: B 年度計画を概ね順調に実施しているがⅡがあるためBとする。</p> <p>藤崎委員: B</p>
34	(2) 戦略的な予算等の配分 No.287			1		1	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員: A 戦略的予算配分方針の内容如何。明示されたことに意味があるのではない。</p> <p>猪股委員: A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員: A なし</p> <p>角山委員: A</p> <p>中嶋委員: A 特になし</p> <p>野崎委員: A</p> <p>橋本委員: A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員: A</p>
35	(3) 学外の有識者等の登用 No.288～289			2		2	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員: A (No.288-289) 学長選考会議は常設の会議であるか。常設の会議であれば、大学の執行部の運営評価は当該会議の責任になると思うが、その点はどうなっているか。</p> <p>猪股委員: A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員: A なし</p> <p>角山委員: A</p> <p>中嶋委員: A 学外者の登用は評価できる。</p> <p>野崎委員: A</p> <p>橋本委員: A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員: A</p>
36	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 No.290～291			2		2	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員: A (No.291) 4センターの組織評価の結果はどうであったか。</p> <p>猪股委員: A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員: A なし</p> <p>角山委員: A</p> <p>中嶋委員: A 特になし</p> <p>野崎委員: A</p> <p>橋本委員: A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員: A</p>

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
37	(1) 人事制度 No.292～302		2	9		11	81.8%	0.0%	C		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:C 裁量労働制と勤怠管理の在り方、テニユア制度への取り組みは教員、事務職員の士気にかかわる大事であり、十分な検討を期待したい。</p> <p>猪股委員:C 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:B Bが妥当。No.293をⅢと評価すべきゆえ。</p> <p>角山委員:C</p> <p>中嶋委員:C 人事委員会への学外者の任用は評価できる。</p> <p>野崎委員:C</p> <p>橋本委員:C 一部Ⅱ評価がある。Ⅲの割合からみてCとする。</p> <p>藤崎委員:C</p>
38	(2) 評価制度 No.303～306		1	3		4	75.0%	0.0%	C		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:C (No.304)教員の諸活動に対する外部評価はどのような時点で実施されるのか。</p> <p>猪股委員:C 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:C なし</p> <p>角山委員:C</p> <p>中嶋委員:C 特になし</p> <p>野崎委員:C</p> <p>橋本委員:C 一部Ⅱ評価がある。Ⅲの割合からみてCとする。</p> <p>藤崎委員:C</p>

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置											
39	(1) 事務組織の見直し No.307～308			2		2	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 県派遣職員の異動にともなう引き継ぎ、研修が重要と考える。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A プロパー職員を増員すべし。</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p>
	※ 評定不能のため母数に含めず(№309,312)										
40	(2) 事務の効率化 No.309～315			5		5	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 教務、会計等の事務処理に関する情報システムにトラブルは付き物であり、その点の維持は常に必要。システムの改修はつねに用意が必要と思われるが。</p> <p>猪股委員:A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員:A なし</p> <p>角山委員:A</p> <p>中嶋委員:A 特になし</p> <p>野崎委員:A</p> <p>橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員:A</p> <p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>荒井委員: 学長選考会議は学長選出後、どのような機能を担うのか、法人化後の国立大学ではこの委員会が常設であるにもかかわらず、機能が十分に発揮されていない。東北大学では学長選考会議が常設委員会としてモニターの役割を遂行することを期待されたが、残念ながら、その機能は十分に発揮されなかった。</p> <p>猪股委員: 特になし</p> <p>関根委員: 事務系職員への早急な評価制度を。</p> <p>角山委員: ー</p> <p>中嶋委員: 特になし</p> <p>野崎委員: ー</p> <p>橋本委員: 人事制度は難しいところであるが、この評価のための目標達成ではなく最善の道を探ってほしい。</p> <p>藤崎委員: ー</p>
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置		0	2	19	0	21	90.5%	0.0%			
1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置											

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
41	(1) 外部資金の獲得 No.316～322		1	6		7	85.7%	0.0%	C		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:C 特になし。 猪股委員:C 仮評価で妥当と思います 関根委員:C なし 角山委員:C 中嶋委員:C 特になし 野崎委員:C 橋本委員:C 一部Ⅱ評価がある。Ⅲの割合からみてCとする。 藤崎委員:C</p>
42	(2) 自己収入の確保 No.323～326		1	3		4	75.0%	0.0%	C		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:C どの程度の自己収入を目標としているのか不明。項目は限られると思うが。 猪股委員:C 仮評価で妥当と思います 関根委員:C なし 角山委員:C 中嶋委員:C 特になし 野崎委員:C 橋本委員:C 一部Ⅱ評価がある。Ⅲの割合からみてCとする。 藤崎委員:C</p>
43	(3) 授業料等の適切な設定 No.327～330			4		4	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 国立大学法人では授業料の減免は6%だったと記憶しているが、H23年度はこの項目に大きく影響があらわれそうである。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:A なし 角山委員:A 中嶋委員:A AIUでは2012年度から授業料を696,000円に30%値上げする予定(ご参考までに)。 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A</p>
44	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.331～334			4		4	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 妥当な努力と評価する。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:A なし 角山委員:A 中嶋委員:A 特になし 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A</p>

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
45	3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.335～336			2		2	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 特になし。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:A なし 角山委員:A 中嶋委員:A 特になし 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A</p> <p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>荒井委員: 人件費、物件費、管理費等、着実な経費削減努力に敬服する。ただし、外部資金の獲得を増やせば、政府資金などを除けば、クライアントの意向を考え、それに時間労力を回さざるを得ないのは当然のことであり、その分、大学の本務へ投入されるマンパワー資源が制限されることは避けられない。そのバランスをどう考えるか、財務運営の難しさのひとつであろうと思う。 猪股委員: 特になし 関根委員: 運営費交付金算定の条件、根拠を知りたい。 角山委員: - 中嶋委員: 余剰金確保は大いに評価できる。 野崎委員: - 橋本委員: 厳しい環境のなかでほぼ年度計画を達成しているのは評価できる。 藤崎委員: -</p>
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置		0	0	12	0	12	100.0%	0.0%			
46	1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置 No.337～343			4		4	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 授業評価の回収率は90%を超えているのが普通だが、それに比べるとやや低い。理由は把握しておく必要がある。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:A なし 角山委員:A 中嶋委員:A 教員評価の回収率を100%に。 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A</p>
47	2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.344～351			8		8	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員:A 妥当と評価する。 猪股委員:A 仮評価で妥当と思います 関根委員:A なし 角山委員:A 中嶋委員:A 情報公開は評価できる。 野崎委員:A 橋本委員:A 年度計画を順調に実施している。 藤崎委員:A</p>

※ 評定不能のため
母数に含めず(№338,339,340)

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目		I	II	III	IV	計	III+IVの割合	IVの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
<p>第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置</p>											
		0	1	10	0	11	90.9%	0.0%			<p>【特記事項に関する委員意見】</p> <p>荒井委員： 個別項目の内容は順当に推移していると判断する。【質問】法人特記事項「3 過年度との数値による実績比が可能な事項」の比率が何をしめしているのか、不明。</p> <p>猪股委員： 特になし</p> <p>関根委員： なし</p> <p>角山委員： ー</p> <p>中嶋委員： 様々な情報提供は評価できるが、宮城大学への外部からのアクセス向上と知名度の上昇にさらなる努力を！</p> <p>野崎委員： ー</p> <p>橋本委員： ー</p> <p>藤崎委員： ー</p>
48	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.352～355			4		4	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員：A 特になし。</p> <p>猪股委員：A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員：A なし</p> <p>角山委員：A</p> <p>中嶋委員：A 特になし</p> <p>野崎委員：A</p> <p>橋本委員：A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員：A</p>
49	2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.356～360		1	3		4	75.0%	0.0%	C		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員：C (No.357)H22年度「防災マニュアル」の配布で済んだが、大災害後の対応がH23年度からが必要になる。</p> <p>猪股委員：C 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員：C なし</p> <p>角山委員：C</p> <p>中嶋委員：C 特になし</p> <p>野崎委員：C</p> <p>橋本委員：C 一部II評価がある。IIIの割合からみてCとする。</p> <p>藤崎委員：C</p>
50	3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.361～363			3		3	100.0%	0.0%	A		<p>【委員意見】</p> <p>荒井委員：A ハラスメントは相談員へのアクセスのよさ、迅速な処理、とくに初動の機敏さが求められる。改善にあたってはそれらへの配慮を望みたい。</p> <p>猪股委員：A 仮評価で妥当と思います</p> <p>関根委員：A なし</p> <p>角山委員：A</p> <p>中嶋委員：A 特になし</p> <p>野崎委員：C</p> <p>橋本委員：A 年度計画を順調に実施している。</p> <p>藤崎委員：A</p>

※ 評定不能のため
母数に含めず(No.356)

H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
合計	0	13	309	32	354	96.3%	9.0%			<p>【特記事項に関する委員意見】 荒井委員： これらの項目については経過をみていく必要がある。ただし、ハラスメント関係は教員と学生間だけでなく、管理職と部下、教員と教員、あるいは学生同士など、さまざまな関係で生じるおそれがあり、学生相談所、職員相談所の設置、相談員の研修など、トラブルを未然に防ぐ努力が必要。 猪股委員： 特になし 関根委員： なし 角山委員： ー 中嶋委員： 特になし 野崎委員： ー 橋本委員： ー 藤崎委員： ー</p>

合計(354) + 評定不能のため母数に含めなかった項目(9) = 363項目

仮評価	S	A	B	C	D	S~D合計
	0	40	2	7	0	49
	14					

【委員意見】(全体評価)
 ・項目別評価の結果を踏まえた上で、総括的に記述
 ・教育研究の質の向上や教育研究成果の社会への還元に結びつたと認められる取組を積極的に評価
 ・課題とする点や法人に対する要望等



H22年度業務実績報告(自己評価)に関する委員意見一覧

評価項目	I	II	III	IV	計	Ⅲ+Ⅳの割合	Ⅳの割合	仮評価	S候補?	法人の自己評価に対する委員意見
										<p>荒井委員： 1 教育の取り組みについては新カリキュラムがどのような定着をみたか、その評価には多少時間を要する。 2 研究活動の順調の進捗と地域連携の促進を高く評価する。 3 むしろ運営体制について学長、経営審議会、理事会と教育研究評議会の関係などが見えない。この評価の対象となっていないのであれば、執行部運営に関して、ある種のモニターが必要である。法人化の失敗は大学によってふさわしくないリーダーシップがとられたことに由来する事例が少なくない。単に執行部の見識に任されることで責任がはたされるわけではない。常設学長選考会議に、アメリカ大学の理事会機能を付与する試みもとられているが、実質は機能していないのがほとんどである。学長にも理事会にもモニターシステムは必要である。</p> <p>猪股委員： 特になし</p> <p>関根委員： ◎S評価についても、たとえば(Ⅲ+Ⅳ)が90%以上で、しかもⅣが(Ⅲ+Ⅳ)の50%以上などと客観化できないか。 ◎サバティカル制の導入は、一定の基準を設け、理事会の主導で行うべきである。</p> <p>角山委員： -</p> <p>中嶋委員： 一般的に優良なる大学と位置づけられようが、では「宮城大学とはどんな大学」と問うたときに、今ひとつ個性が見えてこない。 きわめてユニークな、しかも震災後の日本の再生に欠かせない3学部によって構成されているながら、その特色を十分に活かしていないように思われる。今後の検討課題であろう。</p> <p>野崎委員：</p> <p>橋本委員： ・法人化2年目で、約8割の項目がA評価であり、昨年に引き続き全体として年度計画を順調に実施していることを評価します。 ・市町村との協定・連携の拡大がみられ、委員就任・講師派遣・事業協力等が進み、受託調査研究も順調に実施され、教育研究成果が社会に還元されていることを特に評価します。 ・食産業研究科博士課程設置申請は準備万端のうえ再挑戦してほしいです。 ・東日本大震災を契機に本学の活躍がますます期待される状況にあると思われま。被災地の切実な要望に日頃の教育研究成果をもって応え、本学の存在意義を知らしめ復興に向けての大きな力となることを願っています。</p> <p>藤崎委員： -</p>